

「自分の行動で社会をよりよくできるか」「ボランティア経験」2024→2025 中高生の変化

中学生・高校生ともに社会に対する自己効力感が上昇傾向、中学生でボランティアの参加経験が急増

子どもの意見の尊重には、「子どもが意味のある参加ができること」が重要です。こども基本法の第3条は、子どもが意見を表明する権利とともに、「多様な社会的活動に参画する機会が確保される」ことを定めています。

子どもたちはいま、自分が社会に対して主体的にはたらきかけることに意味があると感じているのでしょうか。

そして実際に、社会的な活動に参加しているのでしょうか。

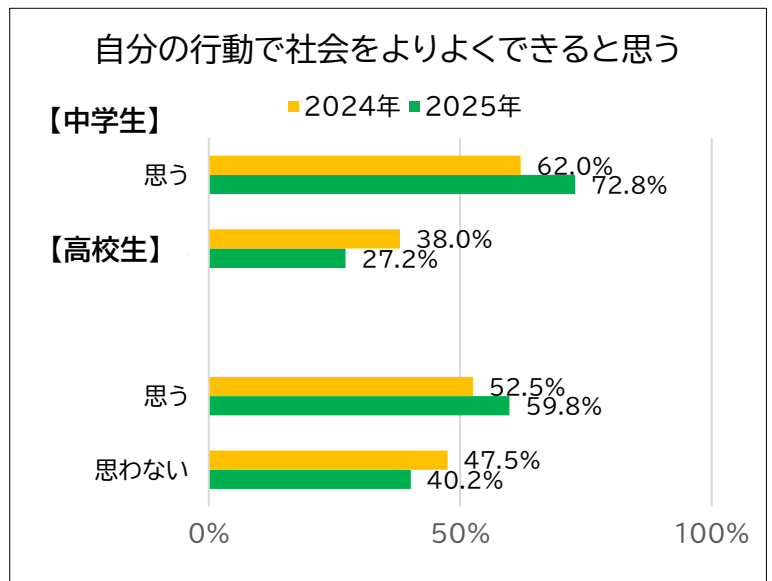
白書シリーズでは、2024年と2025年に連続して中学生・高校生に対し、「自分の力で社会をよりよくできるか」「ボランティア活動に参加したことがあるか」をたずねるアンケートを実施し、各600人から回答を得ました。

中高生ともに過半数以上が「自分の行動で社会をよりよくできると思う」と回答、中学生で増加傾向が顕著

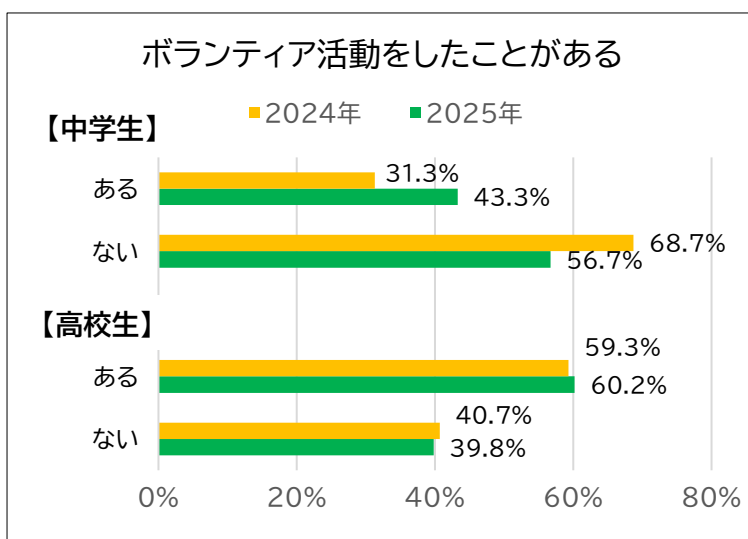
「自分の行動で社会をよりよくできると思うか」という設問に対して、中学生・高校生ともに「思う」という回答が前年を上回りました。

中学生 10.8 ポイント、高校生 7.3 ポイントと、前向きな回答が大幅に増加しています。とくに中学生で「自分にも社会にはたらきかける力がある」という意識が高まっていることがうかがえます。

高校生でも改善がみられますが、中学生ほど大きな変化ではありません。また2025年でも約4割が「思わない」と回答していることから、中学生より自己効力感は低い状況ですが、前向きな回答の増加傾向が今後も続くかどうか注目されます。



中学生でボランティア活動への参加が増加傾向、高校生は横ばいで、過半数の6割が経験



中学生でボランティア経験が「ある」という回答は31.3%から43.3%と大幅に増加しました。依然として過半数(56.7%)は参加経験がないものの、参加経験者は大きく増えています。社会にはたらきかけられるという意識の高まりと、実際の社会参加の経験が同時に増えていることが、中学生の大きな変化と言えます。

一方、高校生でボランティア経験が「ある」回答は59.3%から60.2%とほぼ横ばいでした。もともと高校生は約6割にボランティア経験があり、2025年も同水準を維持しています。

詳しくはWeb版のデータをご覧ください。

「自分の行動で社会をよりよくできるか」 中学生白書[2024年／2025年](#) 高校生白書[2024年／2025年](#)

「ボランティア活動の参加」 中学生白書[2024年／2025年](#) 高校生白書[2024年／2025年](#)